

クロソイ放流技術開発調査　－抄録－

三戸 芳典・田村 亘・[※]藤田 修央

発表誌名

平成2年度放流技術開発事業報告書、クロソイ班、平成3年3月、P91～96

抄　　録

1. 追跡調査

- (1) 平成2年9月10日北金ヶ沢地先水深10mに、標識として右腹鰭を抜去した全長82.5mmの稚魚25,000尾を放流した。また、同年9月21日脇野沢地先3.5～5mに、標識として左腹鰭を抜去した全長82.8mm～100.5mmの稚魚28,000尾を放流した。
- (2) 追跡調査は、放流時に潜水観察した他アイナメ籠による漁獲を試みた。
- (3) 潜水観察では、両地先とも放流後すぐに浅瀬に移動し、岩盤の蔭や隙間に着底した。
- (4) アイナメ籠による調査は、両地先とも放流後2回実施したが、クロソイを採捕したのは脇野沢地先で天然魚10尾だけで標識魚は漁獲されなかった。

2. 漁獲実態調査

- (1) 大戸瀬漁協と脇野沢村漁協の昭和61年から平成2年までの月別漁法別銘柄別漁獲量と水揚げ額を調べた。
- (2) 漁獲盛期は春と冬の2回あり、春は大形魚が多い。
- (3) 漁法別漁獲量では両地先とも底建網を主体とした小型定置網が多く、大戸瀬漁協では年間漁獲量の86.2%を脇野沢漁協では66.8%を占めている。

※：現青森県水産課勤務